



私たちは、旭東小の学区内にある「子生の弁天様」として親しまれ、県の文化財にも指定されている「巖島神社」についてくわしく調べました。



〈なぜ巖島神社ができたのか？〉

平安時代のころ、子生で病気が大流行しました。そこで神様の力がほしいと思っていました。遠坪付近では強盗がはやり困っていました。お地蔵さまがほしい。そこで、お互いの神様を交かんしたことが巖島神社ができることのきっかけになりました。

〈巖島神社の神様とは？〉

〔弁財天〕 = 〔市杵島姫命〕
〔仏教〕 = 〔新道〕

弁才（学問・言葉・音楽） 水（海上）の神様
弁財（お金・財産）の神様

平安時代ごろから、2つの神様が同じという考えが広まり、いっしょにまつられるようになりました。また、「子生」という地名（子を生ず）から安産の神様としても信仰を集めるようになりました。

〈巖島神社の竜〉



本殿の中には、竜が巻きついている柱があります。これは一本造りという作り方でできたものです。一本造りとは、一本の木からけずってつくるもので、昭和48年（1973年）

9月に旧旭村の文化財第一号に指定されました。

〈弁天池〉

大谷川を水源にしているということです。池の中には、かめ、コイ、フナ、金魚などがいます。



〈鳥居がいっぱい〉

巖島神社にはたくさんの鳥居がありました。



参道入り口にある鳥居



大鳥居



参道途中にある鳥居



裏参道入り口の鳥居



拝殿前の鳥居

〈防空ごう？〉



赤い門を入ったところに大きな穴がいくつもあります。防空ごうという人もますが、これは戦争中、食料をたくわえる所がなく、この穴に食料をたくわえたということです。

〈狛犬〉



右の狛犬は子獅子を



左の狛犬は玉を

〈まとめ〉

- 森の中にあり、池の中に浮かぶように建てられた社殿。たくさんの鳥居。一本造りの竜。地元にある「巖島神社」をこれからも大切に、自慢できることを伝えていきたいと思います。